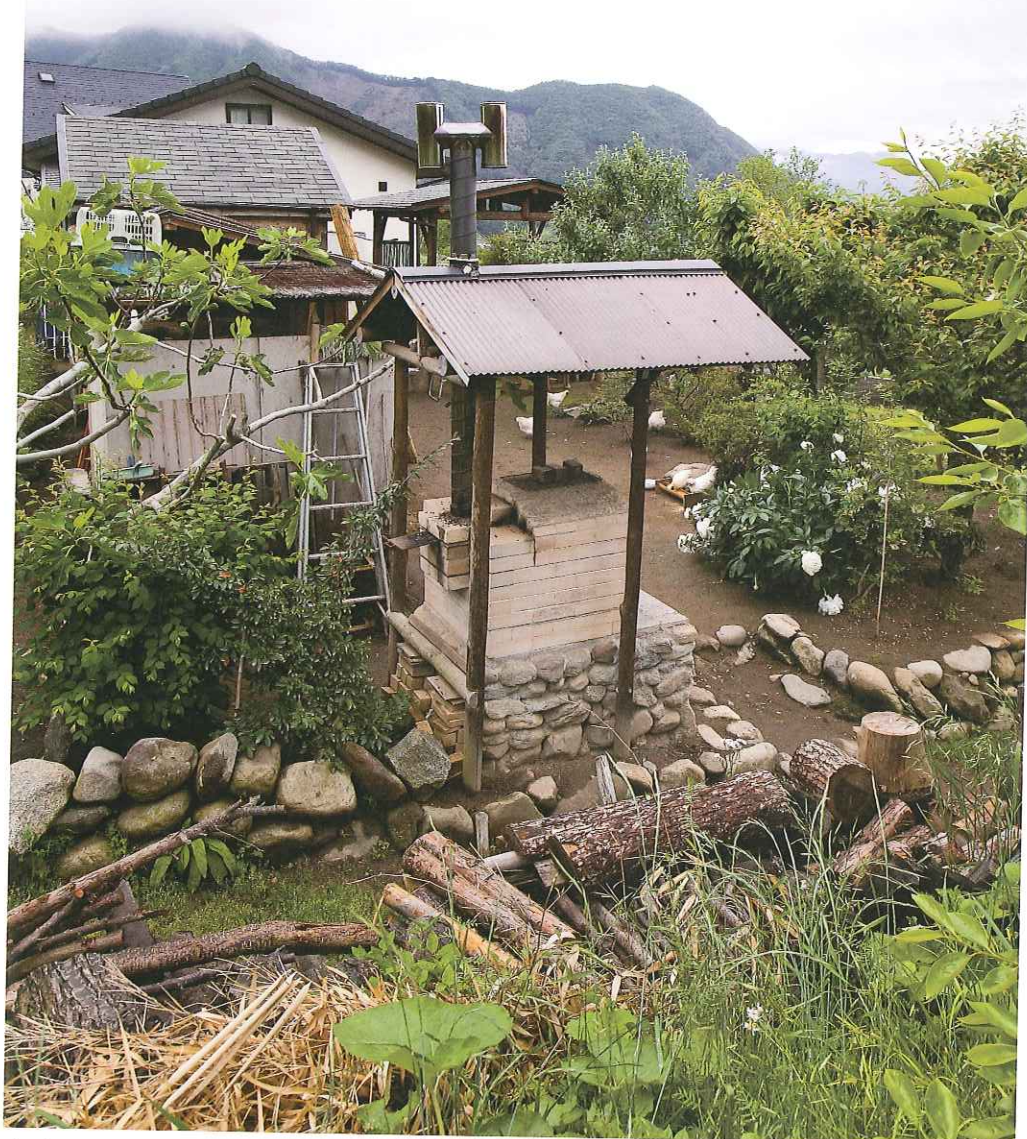




楽しい年金疎開で すてきな遊居人になる
自分たちの遊び場で
体を動かし、土に触れる

「山梨県山梨市・秋山さんご夫妻」



ゆったりとした広い裏庭には、たくさんのお楽しみが詰まっている。



上左：お住まいの奥に文字通りの裏庭が広がる。上右：ご主人手づくりの鳥小屋と、その前でたわむれる烏骨鶏（うこっけい）。下：東屋では、ベンチに腰掛けて囲炉裏を囲む。これもご主人の手づくり。



●問い合わせ先
一般社団法人
移住・住みかえ支援機構
TEL：03-5211-0757

実現へのプロセスを教えてください！

ネットで調べる、地元の役所に電話する、大雑把に候補地を決めて、二人で周辺を歩いてみる。そんな方法で、楽しみながら移住先を探しました。

現在の場所に決めた理由を教えてください！

二人とも山歩きが趣味ですから、とにかく山が大好き。ここからは富士山が見えるので、この土地を見た瞬間「ここだ！」とひらめきました。

苦労したことは何ですか？

苦労というよりむしろ楽しみでしたが、庭にある東屋や鳥小屋、物置などは、全部（ご主人の）手づくりです。道具の提供やアドバイスなど周りの人の協力もあって、ほぼ一人で作り上げました。

家をつくる際のテーマはありましたか？

入り口は狭くても、裏庭は自分たちの遊び場所としてゆったりとしたスペースを確保したいと考えていました。二人の願いは、最高の形で実現したと思います。



南向きの斜面に建っているので日当たりがよい。夫婦の会話も弾む。

山梨市牧丘町に移住してから6年、秋山さんご夫妻は自然と一体になった毎日を送っています。

東京の会社に通うサラリーマンだったご主人は、54歳のときから「いずれは田舎で暮らしたい」と考えるようになり、もともと土に触れるのが大好きな奥さまも賛成しました。

現在の生活について秋山さんは「とにかく自然が好きだから、体を動かし、土に触れる毎日に心から感謝している」とおっしゃいます。

ご主人が畑を耕す作業や草取りを担当し、奥さまが梨や柿、ブルーベリーなど50種類の野菜や果物を栽培。地元の人との交流もとても楽しいそうです。

今後は、あれこれ手を広げずに、「いま満足している生活を、より濃いものにしていきたい」と考えていらっしやいます。



レンガも石もご主人が積んだ、ご自慢の釜でピザを焼く。



澄んだ空気と心地よい空間を求めて、子供さんやお孫さん、親戚の方などがたびたび訪れる。